

『藤農便り』 第 26 号

宮本茶園 宮本透

明けましておめでとうございます 2022 年もよろしくお願ひいたします

昨年 9 月から児童クラブでのアルバイト日数を減らし、週 1 日の勤務にしています。相模原市役所の意向調査には 2022 年度勤務継続希望を出さず、3 月末で新規就農以来 5 年間続けたアルバイトに終止符を打つことにしました。4 月からは野良仕事に専念、今年の目標は「安定した農業経営を目指し、相模原市の認定農業者になれるよう精進続ける」です。6 年目に入った佐野川での茶・雑穀・花卉栽培は老後の生きがいになっています。学生時代は引きこもって留年、賃金労働者時代は処分を受け最後は解雇と挫折続きの人生でしたが、農民になってからは前向きな気持ちで野良仕事に励んでいます。高校生の頃漢文で習った「人間万事塞翁が馬」、多くの有名人が座右の銘にしているそうですが、私も 64 歳の誕生日を迎えるに至りこのことわざの意味がわかってきました。

・新商品「佐野川焙茶」発売

前号でお伝えしたほうじ茶製品は予定通り 10 月 14 日に発売しました。当日は神奈川新聞が取材してくださり、記者に大河原部長の茶園を案内しながら藤野茶業部の取り組みをお話ししました。半世紀以上続く足柄茶北端産地の歴史、2018 年 10 月相模原ブランド「佐野川茶」誕生までの経緯、茶園管理協同作業・耕作放棄茶園再生・後継者育成等の活動を約 2 時間ていねいに取材していただきました。大河原部長・中村副部長と 3 人で佐野川茶製品を持つ写真を撮っていただいた後、茶園に 5 製品を並べスマホで記念撮影しました。10 月 20 日付紙面にはにこやかに佐野川茶製品を手にする写真入り記事が掲載され、さっそく LINE でつながる教え子や知人・友人に情報発信しました。たくさん励ましの返信をいただきましたが、「宮本先生も優しいお顔で！写って！」というメッセージには目を吊り上げ怒鳴りまくっていた熱血担任時代を久し振りに思い出し、苦笑いしてしました。



神奈川新聞報道の反響は大きく、県内各地から佐野川を訪れるお客様に茶園をご案内する機会が多くなりました。販売も好調で観光協会のふじのね・サガミックスや J A 各店舗への納品数が増え、大口の注文もいただいています。先日は本村相模原市長が Facebook に「相模原市特産 佐野川茶一番棒ほうじ茶 寒い夜は、我が市特産の『佐野川茶一番棒ほうじ茶』をいただくと、ホッとしますね。美味しい佐野川茶を応援していただければ嬉しいです」と投稿してくださいました。市長をはじめ皆様の応援、藤野茶業部農家の励みになっています！



・秋の茶仕事

宮本茶園の肥料はこれまで農協で購入していましたが、昨年夏肥から茶来末佐々木社長から紹介いただいた静岡県に本社がある豊田肥料の茶樹専用肥料を使っています。豊田肥料は営業担当者が佐野川を訪れて藤野茶業部農家の各茶園を視察、土壌を持ち帰って分析し年間の施肥計画を立てて、茶園に適した肥料の種類と施肥量を示してくれます。藤野茶業部では季節毎に行う施肥に 1 反当り 10~15kg の窒素を施します。宮本茶園は茶配合肥料と有機肥料を併用しているので、窒素含有率が約 2%の鶏糞・豚糞は 1 反に 20~30 袋施肥します。1 袋約 400g 窒素が含まれる 15kg の有機肥料を数十袋担いで急斜面の茶園で行う施肥作業は、覚悟がなければ出来ない重労働です。土壌分析結果を

診ると宮本茶園の茶樹は有機肥料の窒素を十分吸収していないようで、施肥した窒素が茶葉の品質に反映されていない事がわかりました。夏肥に続き9月に施した秋肥の効果は顕著で、10月下旬芽の生育が止まり秋整枝をする時期になってもこれまで見たこともないような青々として勢いのある葉が出ています。豊田肥料のアミノ酸含有量が高い肥料は茶葉の旨味と収量向上に効果があるそうで、今年の収穫が楽しみです。

藤野茶業部ヘルパー養成研修会は9月秋肥・10月秋整枝・11月有機資材敷き込みを実施しました。秋整枝は次年度の収穫に大きく影響するので慎重な機械操作技術が必要です。数mm深く刈るだけで摘採日が遅くなり荒茶価格が変わってしまうので、夏整枝後に伸びた枝を観察し整枝面が一定になるよう機械を持つ2人が息を合わせて作業しなければなりません。参加者は真剣に部員の指導を受けながら、機械操作を学びました。



10月は県農業技術センターの茶園巡回指導があり、茶園巡回指導後の茶業部会で第54回神奈川県茶園共進会出品茶園が伝えられました。2018年藤野茶業部活動で再生させた上岩の元荒廃茶園が選ばれ、私にとっては正に青天の霹靂でした。15号で報告した「再生に取り掛かったのだからやり続けたほうがいい。一所懸命やっていたら、きっと誰かが応援してくれる」と営農指導で説得されて借りる事になった茶園です。あれから3回の夏が過ぎ、蔓草が生えなくなった事を評価されたと同向きに受け止め、準備に入りました。11月のヘルパー養成研修会では部員・参加者に協力していただき、茅場のススキを刈り取って畝間に敷き込みました。藤野茶業部仲間に支えられて共進会出品した茶園、審査結果は次号でご報告します。



・ちーむゴエモンの活動（醤油手入れⅡ）

昨年2月に仕込んだゴエモン佐野川チームの醤油醪は毎月一回メンバーが集まり手入れをしています。8月の手入れまでは雑菌の侵入もなく、順調に発酵が進んでいました。昨夏は8月中旬天候不順で雨降りの日が続き、高温多湿の影響で産膜酵母が発生してしまいました。高橋師匠に教えていただいた対処方法は ①醪の表面が白くなったら速やかに手入れして産膜酵母を混ぜ込む ②高温の日は朝樽の蓋を開け夕方閉める です。秋が深まるまで産膜酵母の発生は続き、野良仕事に出かける前に必ず樽を開けて醪の状態を観察・対処する日々が続きました。発酵の世界は奥が深く、たった一度の不注意でこれまでの努力が水泡に帰してしまう事も度々です。高温季節の醪管理、とても勉強になりました！



12月に行った19回目の手入れ、樽を開けると芳醇な香りが漂い醪の表面は褐色に輝いています。2020年佐野川チーム最初の醤油仕込みは、原料の大豆が猪の食害で収穫できず全てを上岩雑穀畑産で賄う事ができませんでした。この醪は小麦・大豆を栽培・収穫して原料を用意し、ヤギ苑に泊まり込んで醤油麹を仕込み、産膜酵母の発生に対処して手塩にかけて育てた物です。毎月の手入れは平塚養護学校OB・OGのメンバーが集い、同窓会のような楽しい時間を過ごす事ができました。正月が明けたらいいよ醤油搾りです！



・雑穀街道普及会 2021 年秋・冬の活動

これまで上岩雑穀畑では麦類を収穫した後は、次年度に大豆を播種するまで作付けせず雑草に覆われないよう時々耕耘機で耕すだけでした。キビ・アワが出穂して収穫を迎える季節、雑草がはびこる裸地は殺風景なので昨夏は景観用コスモスを植え付けました。8 月上旬に播種したのですが生育が早く、秋分の日には満開になりました。柔らかな初秋の日差しの下、鞘が膨らみ始めた津久井在来大豆と穂を垂れた雑穀とそよ風にたなびくコスモスの花はとても絵になります。



播種が遅くなった雑穀と津久井在来大豆ですが、見本園の陸稲以外は収穫する事ができました。但し収量は前年に比べて少なく、キビ・アワはそれぞれ 10 kg を越えず JA クレインの加工場で精白する事ができません。大豆は今年の醤油仕込み原料と植え付け用種子を確保すると僅かに残るだけで、販売せずに娘家族と昨秋所帯を持った息子に届けます。キビ・アワは西原の中川さんに精白をお願いし、流通できる製品にしたいと思います。



10 月 18 日久しぶりに木俣師が佐野川を訪れ、上岩の雑穀栽培農家の聞き取り調査をしました。上岩は雑穀を種継している篤農家が健在で、雑穀街道の農耕文化が守られている地域です。アワとハトムギを栽培している農家は西原

の降矢さんと親交があり、木俣師と思い出話を語り合っていました。キビと陸稲を栽培している農家は 90 歳を越えてもかくしゃくとして毎日野良仕事を続け、脱穀して乾燥させている収穫物を見せてくださいました。ランチを予約したアミーユの橋本さんから「あんたたちいつ来るの!」と電話があるまで話が尽きない調査でした。

アミーユではランチをいただきながら、それぞれがかかわる雑穀街道普及会・ちーむゴエモン・相模湖ダム建設殉職者合同追悼会の取り組みについて情報交換し、雑穀街道の FAO 世界農業遺産登録申請について話し合いました。木俣師が相模原市・上野原市市長と面会するに当たり、私が相模原市長秘書に連絡し橋本さんが上野原市長に連絡して日程調整する事になりました。

11 月 16 日上岩へ相模原市長秘書をお呼びし、雑穀畑視察後に木俣師が雑穀街道の FAO 世界農業遺産登録申請の意義を説明しました。藤野では 2020 年度から相模原市の地域活性化事業交付金を活用して世界農業遺産登録申請準備をする計画がありましたが実現しませんでした。この間の経緯はかかわる人の考え方が大きく違うのでコメントを控えますが、雑穀街道普及会が現在取り組んでいる世界農業遺産登録申請準備を秘書にお伝えしました。木俣師は秘書と相模原市長面会に向けて日程調整をしていますので、メルマガ情報をお待ちください。

12 月 27 日上野原市役所で村上市長と面会しました。市担当者・橋本さん・西原の富澤農業委員が同席し、木俣師が資料を使いながら雑穀街道の取り組みを説明しました。市長の幼少時代は雑穀栽培が身近だった事や西原・柵原の伝統的な雑穀栽培等が話題になり、世界農業遺産登録申請準備について前向きな内容の打ち合わせでした。今後の連絡調整は木俣師と市担当者が行う事になりました。上野原市はキヌア栽培を奨励し調整作業を行う施設・設備が充実している雑穀街道の重要拠点、交流を深めていきたいと思っています。

※佐野川での雑穀街道普及会活動に興味のある方は宮本携帯 (090-2205-8476) へご連絡ください。上岩雑穀畑では雑穀栽培講習会開催の準備を進めています。